福岡県版学校事務の長期ビジョン（H28年度～）

とびうめマップ

Ver. 1.01

平成２８年１１月

福岡県小中特別支援学校事務職員研究会

FUKUOKA

Ⅰ　はじめに

教育基本法の改正以降、教育は大きな変革と変容の中にあり、様々な教育改革が急速に実行されています。学校は次々と打ち出される教育施策への対応に追われ、学校教育の複雑化は年々増しています。

また、子どもを取り巻く環境においても、学力・体力低下、コミュニケーション能力低下、自尊感情の低下、いじめや不登校問題、規範意識の低下、家庭環境の多様化、子どもの貧困問題、と多くの問題を抱えています。価値観の多様化やライフスタイルの変化などにより、教育に対する課題やニーズも多様化しています。こうした子どもの問題に対して、解決を担う場が学校教育に求められています。

福岡県では、平成２４年３月、県民一人ひとりが福岡県に生まれ、生活してよかったと実感できる「県民幸福度日本一」に向けて、目指すべき姿とこれを実現するための施策の方向性を示す福岡県総合計画（平成２４年度～平成２８年度）が策定されました。またこれを県が推し進める教育行政の指針とし、平成２４年度から福岡県教育委員会でも福岡県教育施策実施計画を策定しています。その中では、子どもたちの「学力」「体力」、そして学校・家庭・地域の「教育力」という３つの「力」の向上を目指して、福岡県における教育の基本目標や施策が示されています。

これらを受け、私たち事務職員が果たすべき役割はどのようなものがあるのでしょうか？福岡県小中特別支援学校事務職員研究会（以下「福事研」という。）では、事務職員が子どもたちの育ちに関わる中での、気づきや行動への指標となるように、「専門性」「連携」「協働」をキーワードに福岡県版学校事務の長期ビジョン（以下「とびうめマップ」）を作成しました。

愛称『とびうめマップ』について

平成２１年度に全国事務研究大会を福岡県で開催した折に、太宰府の「とびうめ」をモチーフに研究団体としてのシンボルマークを設定しました。
今回の長期ビジョンの愛称にもシンボルマークにちなんで「とびうめ」を使用しました。
このシンボルマークの赤を基調とした色使いは、事務職員の熱き思いや子どもを見守っていこうとする温かな気持ちを、形は、大きく元気よく両手を広げた子どもの姿を、それぞれ表現しています。

長期ビジョンを、将来のあるべき姿を展望するための地図と捉えて「マップ」としました。

Ⅱ　とびうめマップができた背景

福事研は、平成 21 年度の全国公立小中学校事務研究大会福岡大会後、会員によるテーマフリーのショート・プレゼンテーションと研究特別委員会主体の研修、学校事務の専門性を考えるマネジメント等研修による分科会形式を進めてきました。しかし、それぞれの研修内容にまとまりがなく、研究の方向性が見えない、という会員からの多数の意見をいただきました。

また、今後１０年間で大きな世代交代の時期を迎えようとしており、これまで各々の学校で事務職員が培ってきた経験値や成果を、どのように継承し発展させていくか、福事研として重要な課題となっています。

これらの状況を踏まえ、向こう１０年間程度を見越した学校事務職員像と学校事務のあり方について、福事研の核となる考え方（方向性）を示す必要性について議論を行い、その手立てとしてとびうめマップを策定することとなりました。

また福岡県では、平成 19 年４月から加配のない事務の共同実施がスタートし、平成 25 年度までにおおむね県下のほとんどの自治体が共同実施の本格実施を実現してきました。共同実施の成果も見えてきましたが、平成 26 年２月に実施した、事務の共同実施等にかかわる県内アンケート調査では、県費事務以外への広がりがない（内容面）、教育委員会や校長会との連携不足（組織活用の面）の２点に集約された課題があり、共同実施が事務職員のためだけのいわば「内向きの共同実施」に留まってしまっている現状が分かりました。この課題に対しての方策も求められています。

さらに、長期ビジョン（とびうめマップ）検討委員会を立ち上げた後、具体的な中身はまだ定かではありませんが、政令市教職員の給与負担が、平成 29 年度には県から政令市へ移譲されることが決定しました。このことも、策定の必要性の後押しとなっています。

「とびうめマップ」は、随時公開し、多くの意見を聞き、よりよいものへと進化します。とびうめマップが、事務職員の気づきや行動へつながり、子どもたちの育ちを支え、学校づくりへ貢献でき、さらに進化できるよう、具体的な方向性と実行策を提案します。

FUKUOKA

とびうめマップ

福岡県版 学校事務の長期ビジョン

目指すべき目標（ミッション）

子どもたちが夢を抱き、
将来に向かってはばたける学校づくり

ミッション実現をかなえる事務職員像

子どもたちの豊かな育ちをめざして、
学校経営ビジョンの実現に貢献する事務職員

事務機能の強化

連携

地域住民

教育委員会

保護者

共同実施

協働 チーム学校

教員

専門スタッフ

専門性

事務職員

キーワード

専門性

学校で唯一の行政職員として、学校財務をはじめとする事務部門を統括する事務職員

≪実行策≫

- ○学校経営参画の推進
- ○必要な資質能力向上プログラムの開発
- ○研修実施体制等整備
- ○学校財務を統括する職務内容の構築

協働

学校経営ビジョン実現のため教職協働の深化に対応し、校内教職員、他校事務職員と協働する事務職員

≪実行策≫

- ○カリキュラムと学校財務をつなぐための学習指導要領、教育課程への理解の深化
- ○共同実施を活用した「チーム学校」の推進

連携

学校内外の組織等との重層的な連携を、主体的に担う事務職員

≪実行策≫

- ○教育委員会との連携・協力体制の整備
- ○学校運営協議会への参画
- ○保護者・地域との連携・協力体制の推進

課題解決のための重点項目

- 教育の機会均等 教育条件整備
- 就学保障 学力保障
- 学校・家庭・地域の教育力向上「チーム学校」

子どもの実態 ・ 学校の課題

長期ビジョンの詳細については福事研ＨＰ（http://fukujiken.com）でご覧になれます。

Ⅲ　基本的な考え方

１　目指すべき目標（ミッション）

子どもたちが夢を抱き、将来に向かってはばたける学校づくり

事務職員が、学校現場で日々子どもたちと関わりながら、様々な課題に対しチーム学校の一員として取組み、子どもたちが夢へと向かう育ちを支えていく姿を思い描いています。

ミッション実現のための重点項目

◆子どもたちの「学力」「体力」の向上（教育条件整備等）

子どもたちが将来の夢を描くとき、学力や体力があれば、その夢の実現はより可能となっていくと思われます。よって、子どもたちの就学を保障し、また学力を保障する必要があります。そのために、事務職員が教育環境を整えることが重要です。

◆子どもたちの「経済面」のバックアップ（就学・学力保障）

「子どもの貧困対策の推進に関する法律（平成２５年６月）」の目的の中で、「子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、貧困の状況にある子どもが健やかに育成される環境を整備するとともに、教育の機会均等を図る…」と書かれています。保護者負担軽減等に学校が取り組むことで、家庭の経済面での安定に寄与し、子どもたちは夢を描け、将来像を具体的に考えることができるのではないでしょうか。

◆子どもたちを支える「教育力」の推進（チーム学校）

子どもたちの夢を沢山の人が見守っている、そんな学校や行政・地域「チーム学校」でありたいと思います。学校では、それぞれの職種が専門性をもって職務にあたることで、より安定した「教育力」を提供できると考えます。すなわち、共同実施を活用して保護者や地域の豊富な教育資源を生かし、子どもたちが活用できるシステム作りをすることや、教育委員会や行政と予算や制度面で連携を強化することにより夢実現の具体化の可能性が上がると考えます。

２　目指すべき事務職員像

目標（ミッション）を達成するため、私たち事務職員がどうあるべきか、目指すべき『事務職員像』を以下のように考えました。

子どもたちの豊かな育ちをめざして
学校経営ビジョンの実現に貢献する事務職員

とびうめマップを策定するにあたり、皆で共有できる理念をキーワードにしました。

専　門　性…学校で唯一の行政職員として、学校財務をはじめとする管理運営部門を統括する立場にある事務職員

現在北九州市は校務支援システムが導入され、服務管理により出勤簿の集中処理が可能となっています。これにより定例の県費・旅費事務に関する分野が効率化され、従来の専門性と思われていた分野が変化してきています。今後１０年、県内でもこの分野については、共同実施やシステム導入等により効率化が進むと考えられます。
これらをふまえ、子どもたちの夢の実現を考えた場合、目指すべき専門性の方向は、学校財務の充実であり、学力保障（教育環境の整備）となるのではないでしょうか。
私たち事務職員が学校財務や学校経営にどのように取り組むべきか、そのために必要な資質能力を示し（行動指標）、必要な研修支援を考えます。

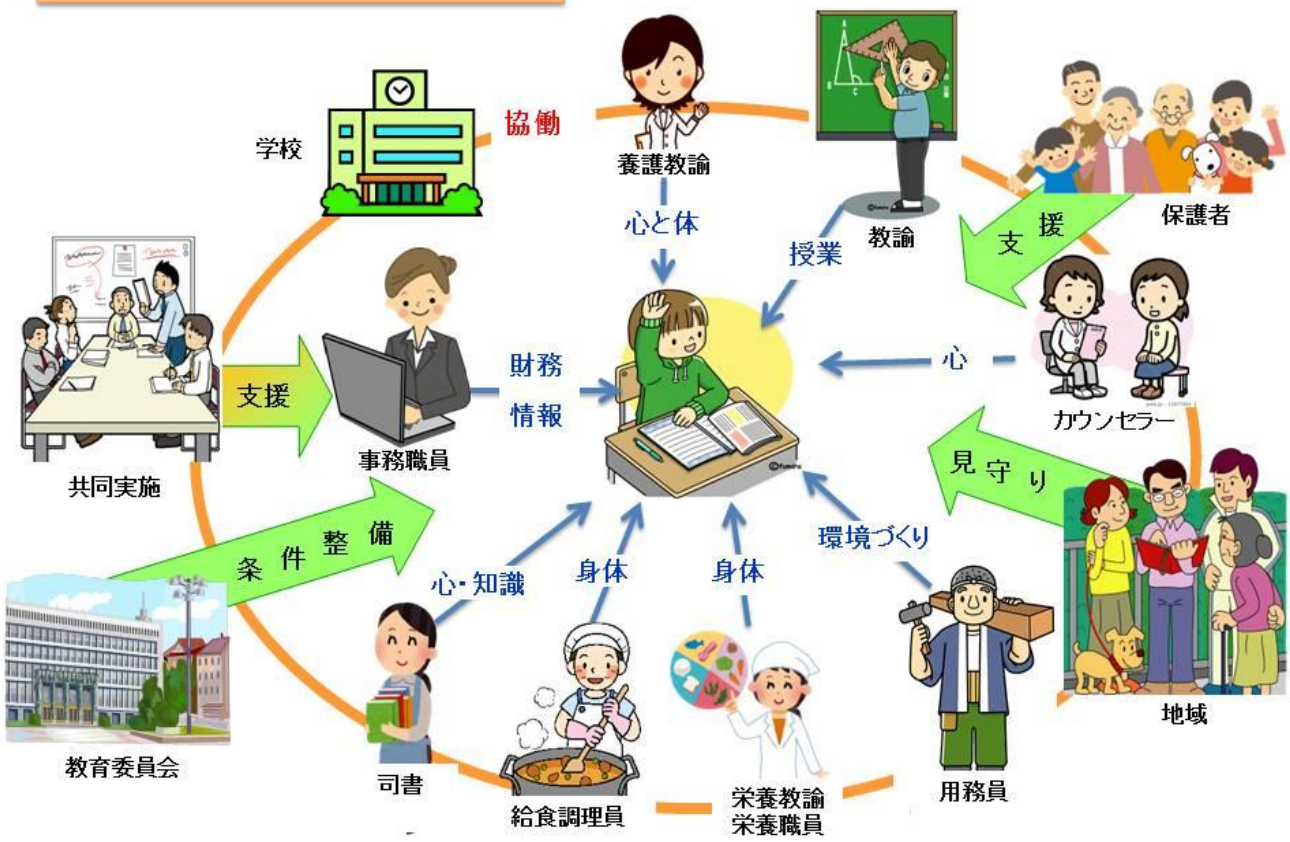
協　　働……教職協働の深化に対応し、学校経営ビジョン実現のため共同実施のアイデアを生かしながら、主に校内分掌組織との協働を積極的に担っていく事務職員

子どもたちの夢実現は、私たち事務職員単数のみで達成できるものではありません。
教員をはじめ、学校内のあらゆる職員が情報を共有し、それぞれに専門性を発揮し、学校教育目標の実現や課題に向かって取り組む必要があります。
また、単数での事務職員ではカバーできない大量の事務業務や学校の課題を、共同実施で取り組むことにより、さらに効果を発揮することがあると考えています。

連　　携……校内外の組織等との重層的な連携を、主体的に担っていく事務職員、いわばチーム学校のスタッフ（管理運営部門のキーマン）として役割を果たしていく事務職員

教育環境のさらなる向上のためには、教育委員会・行政・地域との連携強化が重要です。また、保護者との連携は、子どもたちの夢実現のために必要です。子どもやその保護者に、情報や財務の担当者としてかかわるだけではなく、人や関係機関等をつなぐ役割を担うことも事務職員の目指す方向性はあると考えます。

専門性・協働・連携イメージ図



FUKUOKA

Ⅳ　具体的な実行策

【福事研】

とびうめマップ達成の実行策　　（表―1）

	実行策	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
専門性	学校経営参画を推進する	マネジメント研修	カリキュラムマネジメント研修 →		政策形成研修 →	
	職階に応じた必要な資質能力を考察する	マネジメントと行動指標例作成		行動指標例の検証 →		
	研修の実施体制等を整備する	県教委と研修体制について協議 →		研修テキスト等作成	研修の実践・改善 →	
	実践と情報の共有化を行う	実践発表の設定（県大会・研修会等の企画・運営） →				
協働	カリキュラムと財務の関連性について理解を深める	カリキュラムマネジメントを生かした財務ウィークへの取り組み →				
	共同実施を活用した評価等チェック体制を考察する	共同実施経営案モデル作成		評価項目等の検討	評価の実施・改善 →	
連携	教育委員会との連携・協力体制を整える	教育委員会との合同研修計画・実施				
	校長会との連携・協力体制を整える	校長会との連携・協力体制の推進				
	保護者・地域との連携・協力体制を考察する	CS等の情報提供（HP等） →			モデルの提示 →	

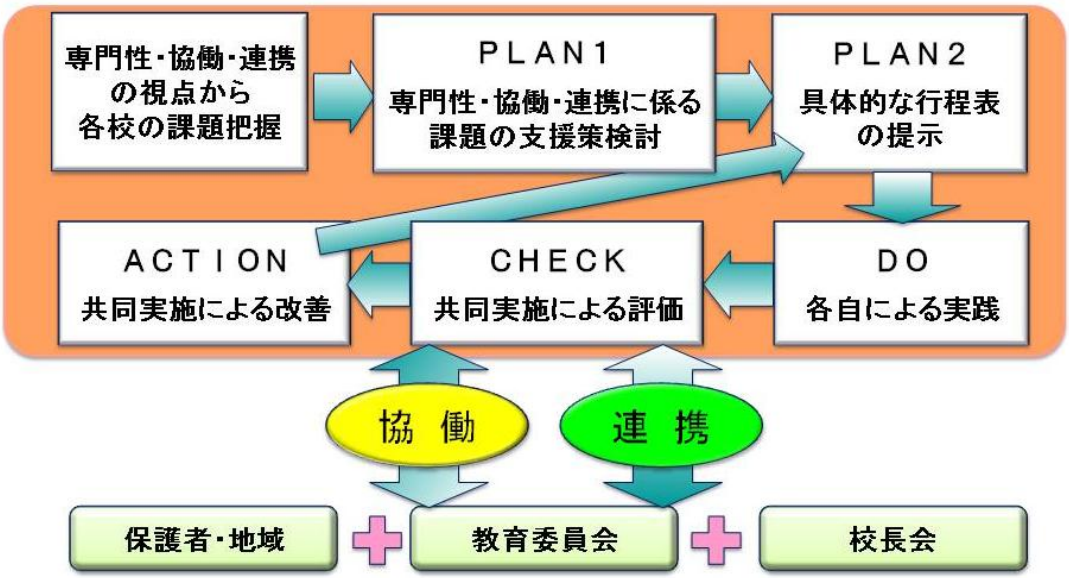
とびうめマップ達成の実行策（表―１）は、福事研が専門性・協働・連携のキーワードで実行していく内容となっています。それを基に年度別のテーマ研修を考えました。

年　　度	テーマ研修	研　　修　　内　　容
平成 28 年度	マネジメント	長期ビジョンの周知（意見交流）　~~実行策の作成~~
平成 29 年度	カリキュラム	カリキュラムマネジメントと財務
平成 30 年度	人材育成	コミュニケーション、チームビルディング
平成 31 年度	政策形成	政策形成基礎・演習研修
平成 32 年度	地域協働	地域とともにある学校、多様な主体との協働

とびうめマップ達成のため、実践と情報の場である福事研研究大会を中心とし、各モデルの提示や資料等作成、テーマ研修による理論や実践の深化、また県教育委員会、各市町村教育委員会、校長会等と連携しながらすすめていきたいと考えています。

【共同実施】

とびうめマップの目標達成のためのマネジメントサイクル



共同実施では、「専門性」「協働」「連携」の視点から、各校の課題を取り上げ、その支援策を検討し、各自の具体的な行程表を提示します。それを基に各自で実践し、共同実施で評価・改善します。

【個人】

〇実行策に求められるマネジメント能力と行動指標

大分類	中分類	構成要素
基　　礎 マネジメント	組織マネジメント	〇組織の活性化　〇ビジョンの育成　〇人材育成 〇学校のシステム化　〇安全・衛生・危機管理
	自己マネジメント	〇資質向上・専門性の深化
カリキュラム マネジメント	財務マネジメント	〇予算計画　　〇予算執行
	情報マネジメント	〇情報管理　　〇情報活用　　〇情報発信
	施設設備マネジメント	〇施設・設備・教材の開発・調達 〇施設・設備・教材の活用 〇施設・設備・教材の設備計画
ネットワーク マネジメント	ネットワークマネジメント	〇地域連携の推進　〇学校支援体制の促進 〇就学保障

また、上記マネジメント能力を職位に見合うレベルで行動に示したものを、「福岡県学校事務職員のマネジメントと行動指標例」としました。（別紙参照）

〇職位に応じた必要な研修

職　　位	研　　修　　内　　容
主　　事	実務、地方公務員制度、学校教育制度、接遇、児童生徒理解
主任主事	情報処理、教育課程、学校組織、事務部経営案
事務主査	学校組織マネジメント、政策形成、企画能力
企画主査・主幹	指導者養成、学校評価、経営管理、交渉・折衝・判断能力

研修の実施体制など、人材育成の具体的な取り組み方法について、県教委等との関係機関と協議し、補完体制を整えます。

おわりに

平成２７年７月に中教審が発表した「チーム学校」（中間まとめ）の中で、「事務職員は、学校でほぼ唯一、学校運営事務に関する専門性を有している職員であり、その専門性等を生かし、校長を学校経営面から補佐する学校運営チームの一員として役割を果たすことが期待されている。」とされています。学校運営に関わるには、その中心にいる子どもたち、また教育に関する理解が必要となります。

とびうめマップは、子どもたちが活き活きと学校生活を過ごせるように、「専門性」を高め、学校内のスタッフや共同実施と「協働」し、学校外の関係機関と「連携」することを提案しています。改めて学校運営と捉えなくても、学校経営に関わっている、つながっている日々の業務に気づき、一歩踏み出し意識して行動しましょう。一人一人ができることを実践していくことが大切です。そして、子どもの笑顔があふれる学校生活を、学校内外の関わりある人々とともに創っていきましょう。

FUKUOKA

とびうめマップ作成メンバー

川原　通央	小郡市立のぞみが丘小学校	野見山　佑	嘉麻市立牛隈小学校
武原　　寛	糸島市立波多江小学校	堀　　典子	久留米市立青陵中学校
野村　明告	福岡市立友泉中学校	石川健一郎	糟屋郡新宮町立新宮東小学校
鬼塚　信也	柳川市立大和中学校	神谷　博重	遠賀郡遠賀町立遠賀中学校
吉備　昌彦	嘉麻市立碓井中学校	河野　正和	京都郡みやこ町立豊津中学校
武本　　篤	北九州市立二島小学校	樋口　桂子	八女市立八幡小学校
馬原　伸司	田川郡川崎町立鷹峰中学校	所属は平成２７年度	

参考文献

- 文部科学省中央教育審議会　各答申
- 福岡県総合計画（福岡県）
- 福岡県教育施策実施計画（福岡県教育委員会）
- 学校事務のグランドデザイン（全国公立小中学校事務職員研究会）
- とりビジョン（鳥取県公立小・中・特別支援学校事務職員研究会）
- 元気福井っ子の笑顔のための学校事務グランドデザイン（福井県公立小中学校事務職員研究会）

FUKUOKA